［令和５(2023)年度　総括評価表］　　高等部　　徳島県立阿南支援学校

自　己　評　価					学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評　価		学校関係者の意見	今後の改善方策
安心・安全な学校づくり	（全校レベル） Ⅰ)児童生徒一人一人の人権を尊重した教育の徹底 Ⅱ)事故防止、感染症予防対策の徹底 <下位組織レベル> ①「さん」付け呼称の実施 ②生徒情報の共有及び事故防止対策の徹底	評価指標 ①　人権や卒業後の進路に配慮じて、すべての生徒に対して「さん」付け呼称ができる。 ②　生徒の事故防止対策や健康状態等について、教員間での情報共有ができている。 活動計画 ①-1　学部会において、すべての生徒に対して「さん」付けで呼称することを呼びかけ、学部内の申し合わせ事項として確認する。 ①-2　学部会や終礼等で定期的に呼びかけを行い、定着を図る。 ②-1　学部長は、１日１回は各学級を回り、生徒の状況等を確認する。 ②-2　毎週実施する学部会または終礼において、生徒への配慮事項等について、情報共有の時間を設定する。欠席者には記録を回覧し、全員に伝達できるように配慮する。 ②-3　けがや事故につながる恐れのある出来事が起きた際、発見者は、すぐに学部長または管理職に報告する。 ②-4　報告があった際、学部長はインシデント・アクシデント報告書作成の判断をする。必要な際には聞き取りを行い、報告書を作成する。その後、管理職と共に再発防止策を検討する。報告書は全員に回覧し、注意喚起や事故防止対策を徹底する。	評価指標の達成度 ①　人権を配慮し、全ての教員が「さん」付けを意識して呼称することができた。 ②　生徒の事故防止対策や健康状態について、教員間で情報共有して教育活動に取り組むことができた。 活動計画の実施状況 ①-1　「さん」付け呼称を学部の申し合わせ事項として、学部会で共有した。 ①-2　学部会等で呼びかけを行い、定着を図る取り組みを行った。 ②-1　朝の登校状況の確認や各学級を巡回することで、生徒の状況を確認した。 ②-2　学部会及び終礼、学部の職朝連絡時において、情報共有の時間を設定し、学部内に伝達するよう努めた。 ②-3　けがや事故につながる恐れのある事案(インシデント事案)について、学部長または教頭に報告があった。 ②-4　インシデント事案について管理職と情報共有を行い、報告書の作成と再発防止策の検討を行った。報告書は回覧し、再発防止策に努めた。	総　合　評　価 （評定） B （所見） ①　学部での申し合わせ事項として確認し、教員一人ひとりが「さん」呼称を意識する取り組みを行った。学部会や終礼の生徒情報を共有する場面でも、人権や卒業後に配慮した呼称をすることができていた。 ②　健康状態を含め、生徒の状況について学部内で周知を図り、情報共有を行った。 　また、インシデント事案については、学部内で協議を行い、再発防止に向けての対応策を検討した。結果、年度途中よりインシデント事案は見られなくなった。	別紙	①　概ね「さん」付けで呼称できていたが、時折、愛称で呼名してしまう場面が見られた。今後も定期的に呼びかけを行うことで、更なる定着を図りたい。 ②　今後も情報共有を徹底し、事故の未然防止に努めるとともに、事故が発生した場合の対応策について検討し、備えをしておく。
多様性を育むキャリア教育の展開	（全校レベル） Ⅱ)卒業後を見据え、成長に応じた指導内容の精選 <下位組織レベル> ①ライフステージや発達段階に応じたコミュニケーション能力や社会性の育成	評価指標 ①　希望する進路先で必要とされるコミュニケーション能力や社会性の向上が見られた生徒が85%以上になる。 活動計画 ①-1　普段の学習活動や就業体験をとおして、必要とされるコミュニケーション能力や社会性について整理する。 ①-2　「個別の指導計画」作成時に、コミュニケーション能力や社会性の向上に関する目標を立てて、実践する。 ①-3　定期的に達成状況について確認する。達成できていない項目については教員間で情報共有を行い、自立活動やソーシャルスキルトレーニングをとおして、学習活動を行う。 ①-4　「個別の指導計画」の評価をとおして、項目の評価が向上しているかどうかを確認する。	評価指標の達成度 ①　85%以上の生徒に、コミュニケーション能力や社会性の向上が見られた。 活動計画の実施状況 ①-1　生徒の実態に応じて、必要なコミュニケーション能力や社会性について整理ができた。 ①-2　全ての生徒に対して、社会性やコミュニケーション能力の目標を立てて実践した。 ①-3　各コースやグループ毎に学習計画を立てて指導を行った。課題のある生徒に関しては、コンサルテーション事業を利用し、指導内容や方法について助言を受けた。 ①-4　「個別の支援計画」の評価をとおして、項目の評価を確認した。	総　合　評　価 （評定） B （所見） ①　自立活動等で行ったソーシャルスキルトレーニングの指導方法について、外部の専門家の助言を受けて改善を行ったことにより、生徒だちは授業での学びを深めることができた。 　また、授業展開や生徒に寄り添った指導の方法、自立活動データベース試案の課題について助言いただいたことで、教員の専門性の向上につながった。	別紙	①　生徒の実態をより詳細に把握し、教員間で共有しつつ、コミュニケーション能力や社会性を身につけるための教育活動のあり方について、継続して検討していく必要がある。自立活動データベースについては、実際の運用に向けて、各教員から知見を収集し、検討会で整理していく必要がある。
地域とともにある学校づくり	（全校レベル） Ⅰ)地域と連携した教育活動の推進 <下位組織レベル> ①地域資源を活用した学習活動の推進	評価指標 ①　竹林再生会議と連携し、地域の竹林から調達できる材料を活用した、竹紙の材料作りや竹紙の紙漉き作業を実施する。 活動計画 ①　活動スケジュール 　５月　竹紙の原料となる竹の加工や漬け込み作業を開始する。 　９月　紙漉き作業を開始する。 　１１月　漉き上がった竹紙を用いた製品作りを開始する。 　　(以上は、作業の進捗状況に応じて随時実施する。) 　１１月から2月　製品の展示販売及び成果の発表を行う。 　３月　年度を振り返り、次年度の活動に向けて課題の検討を行う。	評価指標の達成度 ①　竹林再生会議と連携し、地域の竹林から調達した材料を使って、材料作りや紙漉き作業を行った。 活動計画の実施状況 ①　５月から竹の加工や紙漉き作業を行った。様々な工夫をしながら材料作りは年間を通じて行うことができた。紙漉きは９月より開始し、卒業証書や名刺、栞などを作成した。できあがった名刺は、地元の企業や阿南市役所内の地域共生推進課に贈呈した。２月末には阿南市の主催で開催される活竹祭に参加し、竹紙作品の展示を行う。	総　合　評　価 （評定） B （所見） ①　地域の放置竹林から切り出した竹を材料として、卒業証書を漉いたり、名刺を作成したりした。毎年開催される地域の祭り「七夕祭り」にも参加し、活動の紹介を行っている。 　また、防災時の備えとして、竹パウダーを使って非常用トイレを作成して地域に贈呈し、連携を深めることができた。	別紙	①　竹紙の材料作りを行うための作業環境の確保が課題となっている。天候等に左右されず、安定して作業を行うことできるスペースを確保する必要がある。また、今後も活動を継続するために、竹林再生会議と持続可能な連携に努めていきたい。